

「ニュージーランド留学を終えて」 湧別高校3年 松原光心朗

7月23日～9月20日までの2か月間ニュージーランドのダーフィールドハイスクールに湧別町の交換留学制度を利用して、語学留学をさせていただきました。

ダーフィールドハイスクールは、人口約2,900人のダーフィールドにある全校生徒およそ750人の公立の共学校です。生徒は12歳から18歳までの生徒が通っていて、クラスは自己履修で学びたい教科を選択できます。早川純代先生という日本人の先生がサポートをしてくれて、安心して高校生活を送ることができました。

クラスには台湾、韓国、中国、地元のニュージーランドの友人など多国籍のクラスメイトがいて、日本では考えられません。履修した授業は商業、物理、日本語、英語などでしたが、個人がそれぞれに自分の考えや意見を持っていて、授業中の発言や説明に熱が入ります。人前で話すことがわりと苦手な日本人とは違う印象を感じました。最後まで相手の話を聞き、否定ではなく話し合う。自分の意見と相手の意見の違いを言い合えることがお互いを理解しあうために大切なことだと思いました。

課外活動では、地元のリサイクルセンターに見学に行きました。施設は広く、整備されていて清潔感がありました。なかでもバイオマス整備が進んでいました。施設の敷地は広いので重機も多く、たくさんの方が働いていました。日本と同じようにゴミは分別され、可能な限り再利用されています。ゴミをなくすことに特化していくことは、どの国においても重要なことだと思いました。

また、ニュージーランドに300年ほど前から住んでいた先住民族のマオリ族には会うことはできませんでしたが、たくさんの方が文化が色濃くありました。敬意を持って来客を迎え入れることや心づくしのおもてなしをすることなど、ニュージーランドの人はそんな思いを誇りに思っているとホストファミリーが言っていました。

学校での先生方やクラスメイトもいつも元気で明るい笑顔が印象的でした。日本ではお説教されてしまうようなことでも、気にせず元気でお菓子をつまんで体を動かす！そんな日常が不安や迷いを解消してくれました。運動不足にならないように私も意識をして、苦手なバスケットをしたり、友人に慣れない英語でも話しかけたりコミュニケーションをとることを積極的に行いました。

当初は、私の日常英語ではなかなか通じなくて、ホストブラザーのライリーには迷惑をかけました。学校の行事に参加することが嫌な時、学校のみんなや家族が毎日話しかけてくれて助けてくれました。本当に感謝しています。おか

げで、以前より日常会話には自信がつけました。そして、言葉も大切ですが、笑顔や心が大切なことも学びました。

この留学では、本当に多くの文化や価値観、語学について学ぶことができ、この恵まれた環境で勉学に励むことができたこと、ここまでサポートして下さった皆様には本当に感謝しています。この経験は、将来にもきっと生かすことのできるものと思っているので、十分に活用して進路活動にも尽力していきます。